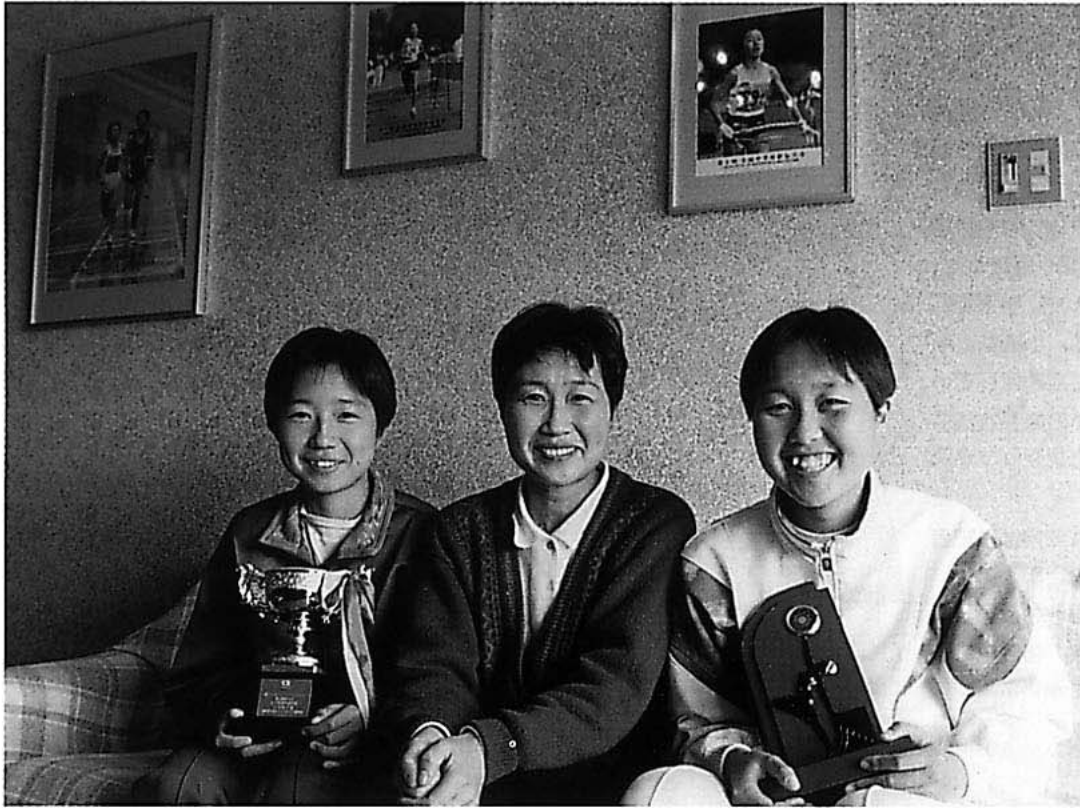


まちのカルチャー人たち④

夢は世界の舞台で ワン・ツを

Miwako YAMANAKA
Ayako YAMANAKA

山中美和子さん(17歳)
山中彩子さん(16歳)



今年、一月に京都で行われた都道府県対抗の全国女子駅伝大会で、奈良県代表として活躍した姉妹がいます。山中美和子さんと彩子さんで、美和子さんは一区を、彩子

さんは三区を走り、都大路を大いに湧かせてくれました。美和子さんが中学時代にマークした区間記録はまだ破られていないとのこと。現在、美和子さんは添上高校の二

年、彩子さんは一年です。二人とも香芝中学の頃からジュニアオリピックで優勝するなど輝かしい記録を残しています。

この姉妹ランナーのお宅を訪問し、応接間へ入ると、そこには姉妹の激走する姿を写した写真パネルがたくさん掛けられ、また無数のカップや記念の楯などがずらりと並んでいました。そして、優しいそうなお母さんの隣にトレーニンクウェア姿も爽やかな二人。

「最初は小学校高学年の時に走って二―三番で、六年の時にマラソン大会で初めて一位になったんですが、そんなに早いとは自分では思わなかった。それから中学校に入ってから先生方から本格的に指導を受けてから、早くなったのかな」と姉の美和子さん。しかし、妹の彩子さんも小学校四年の時に一位になり、二人でワン・ツ―もあったといいますが、既に小さい頃から才能が開花していたでしょう。

三〇〇〇mの中学日本最高記録も持つ美和子さんは昨年の十二月に京都で行われた全国高校女子駅伝で一区を走って三位、彩子さんは熊本で行われた全国中学女子駅伝で区間二位といいますが、二人ともすでに全国レベルのかなり上位の力を備えているといってい

いでしよう。二人ともランナーらしい細身で、失礼だけれどどこにそんなエネルギーがあるのかと思うような優しい女の子です。「走っている時は、何も考えずに夢中で」と二人は可愛い声をそろえて答えられますが、多分、そうとうの頑張り屋さんなのでしょう。そうでなければ、長距離を走るあの苦しさは克服できませんです。

走る苦しさはありませんかとたずねると、代わりにお母さんが、「走れないとかえって調子も機嫌も悪く、走ることが楽しいようだと笑いながら答えてくれました。そこで、お母さんに普段の生活で気を付けておられることを聞いてみたところ、栄養面などで少しあるくらいで特別には無いそうです。練習メニューをもくもくとこなして、毎日十二―十五キロも走るそうですが、夏場は暑くて苦しい季節だといっています。

今年の暮れ十二月、全国高校女子駅伝大会では、二人が連続区間を走れば、姉妹でたすきをリレーするシーンが見られるかも知れません。そして、将来はもっと大きな舞台で二人でワン・ツ―となる日がくることを楽しみに待ちたいと思います。それまでの二人の活躍に声援を贈りたいと思います。